

Canon

NEW F-1

使用說明書



日本語版



各部名称



各部名称はP.70にもありますので、開いてご覧ください。なお各部名称写真はアイレベルファインダー付きです。

目 次

〈カメラの準備〉	6	〈メーターモードセクター〉	39
電池の扱い	6	〈メーターの連動範囲〉	40
レンズの着脱	8	〈測光方式(感度分布)の切り換え〉	41
〈撮影のための準備操作〉	10	〈露出の補正〉	46
巻き上げと露出	10	露出補正目盛りによる補正	46
ピント合わせ	12	マニュアル測光による補正	47
フィルムの入れ方	14	〈被写界深度〉	48
フィルム感度の合わせ方	17	絞り込んで確認する方法	49
〈露 出〉	17	レンズの被写界深度から確認する方法	50
〈シャッターと絞り〉		〈カメラの構え方〉	50
シャッターダイヤル	19	〈フィルムの巻き戻し〉	52
シャッタースピードが及ぼす写真効果	21	〈セルフタイマー撮影〉	53
絞 り	22	〈多重露出〉	54
〈測光方式について〉	24	〈フラッシュ撮影〉	56
開放測光, 絞り込み測光	24, 25	〈FDレンズの機能〉	59
〈露出の決め方〉	27	FDレンズの手動絞りロック	59
〈アイレベルファインダーFN〉	28	〈白黒写真と赤外マーク〉	60
追針式マニュアル	29	〈主要アクセサリー〉	61
絞り込み指標合わせ	31	〈主要性能〉	66
〈AEファインダーFN〉	32	〈手入れと保管〉	68
絞り優先AE	33	ネックストラップの扱い	69
追針式マニュアル	34		
絞り込みAE	37		

ご 挨拶

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。
うございます。

ニュー・キヤノンF-1は、豊富なアクセサリーを活用することによって、
限りない映像を無限に引き出すこと

のできる可能性を秘めています。
その機能をフルに活用するためには、
使用説明書を良くお読みいただき、
十分にご理解のうえ、ご使用ください。

※このカメラの保証書は同封されている、ご愛用者カードと引き換えにお送りいたしますので、
所定事項をご記入のうえ、ご投函ください。

カメラの準備

電池の扱い

電池の入れ方

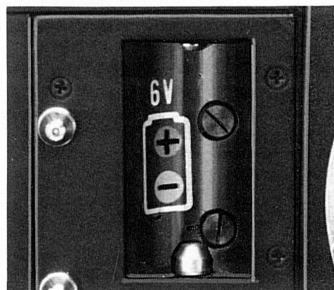
パームグリップは電池室蓋を兼ねています。パームグリップを外して別封の電池を入れてください。

1. パームグリップは、パームグリップ取り外しボタンを押しながら持ち上げると外れます。

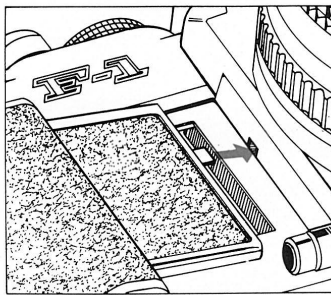


2. 電池を入れます。

電池室内の図に従って、 \oplus \ominus の向きを間違えないように入れます。向きを間違えるとカメラは作動しません。



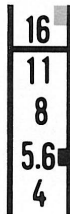
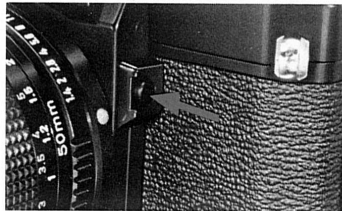
3. 図のように爪をガイドに合わせたのちに、パームグリップを押し付けて蓋をします。



電池性能の調べ方

このカメラは電池性能が低下するにつれて、指針が電池チェック指標に近づきますので、電池の残量がわかります。

1. 電池チェックボタンを3秒ぐらい押します。
2. 指針が電池チェック指標(絞り込み測光指標兼用)以上を指せば撮影可能です。



■ 指針が電池チェック指標より下になっても、わずかの間は、シャッターは作動する安全設計になっていますが、電池交換は電池チェック指標を目安に早目に行ってください。なお、シャッターが切れる間は適正露出が得られます。

■ 電池チェックは、シャッターダイヤルを $\frac{1}{2000}$ ~8秒または $\frac{1}{2}$ マークにして行ってください。ASA感度目盛りはどこにあっても差し支えありません。

■ 電池の寿命は通常使用で約1年です。

電池チェックボタン

次のようなときは、電池をチェックしてください。

1. 電池を交換したとき
2. 長期間カメラを使用しなかったとき
3. ひんぱんに撮影したときや、たびたび長時間露光を行ったとき。
4. シャッターが動かなくなったとき
5. 寒冷地で撮影するとき
6. その他、大切な写真を撮るときなど

電池は次の規格に相当するものをご使用ください。

6V・リチウム電池

—2CR- $\frac{1}{3}$ N

6V・アルカリマン
ガン電池

—JIS 4LR44

6.2V・酸化銀電池

—JIS 4SR44(JIS 4G13)



■ 寒冷地では低温特性にも優れたリチウム電池のご使用をおすすめします。

電池チェックボタンは、セルフタイマー撮影、メーター作動、メーター情報窓(絞り表示)の照明、シャッター作動の途中解除を兼ねています。

電池の取り扱い

1. 電池をカメラに入れるときは、電池および電池室接点についた指紋などの汚れを乾いた布でよく拭き取ってください。汚れたまま入れると接触不良の原因となったり、また、カメラの接点を損なうことがあります。
2. 長期間カメラを使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。
3. 電池は分解したり火の中に入れたりしないでください。
4. 電池は0℃以下になると急激に性能が低下します。したがって酷寒時にはカメラ本体を低温から守るとともに、電圧が十分にある新品をご使用ください。予備電池を用意して、体温で温めながら交互に使用するのも方法です。
5. 低温のため一時的に性能が低下した電池は、常温に戻れば回復しますので捨てないでください。

このカメラは電池が消耗しても、電池を抜き取れば $\frac{1}{2000}$ ～ $\frac{1}{125}$ 秒、 $\frac{1}{90}$ 秒、Bが使用できます(19～20ページ参照)。

レンズの着脱

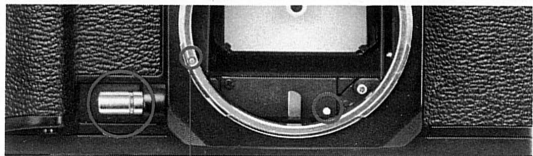
1. ボディキャップを外します。
ボディキャップは反時計方向に回すと外れます。取り付けるときは、ボディキャップとカメラの赤点を合わせて時計方向に回します。
2. レンズダストキャップは反時計方向に回すと外れます。
取り付けるときは、ダストキャップの△印をレンズの赤突起に合わせて、ダストキャップを時計方向に回します。



3. レンズを取り付けます。
カメラの赤点とレンズの赤突起を合わせます。



4. レンズ全体を止まるまで時計方向に回します。完全に取付くとカチッという取付け音と同時に、レンズ取り外しボタンが飛び出ます。



AE信号ピン受け

- カメラのレンズ取付け部内に赤マークが見えるときは、絞り込みレバーを押し込んでください。赤マークが見える状態で取付けると、レンズの絞りは作動しません。なお、赤マークが見えるときは絞り込みレバーにも赤線が見えます。

- 巻き上げ途中で絞り込みレバーを押し込まないでください。レンズが取付かないことがあります。

5. レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。



6. レンズキャップは両側の爪を押し付けながら外します。

- 取り付けできない例外レンズ

FL19mm F3.5, FL58mm F1.2, R50mm F1.8,
R58mm F1.2, R100mm F2, R100mm F3.5

- AE信号ピン受けのないカメラや中間チューブはAマークにして取り付けることも、Aマークにセットすることもできません。

撮影のための準備操作

巻き上げと露出

シャッターボタン ロックレバーのAマークセット
シャッターボタン回りのロックレバーをAマーク位置にセットしてください。L位置にあるとシャッターボタンがロックされカメラは作動しません。



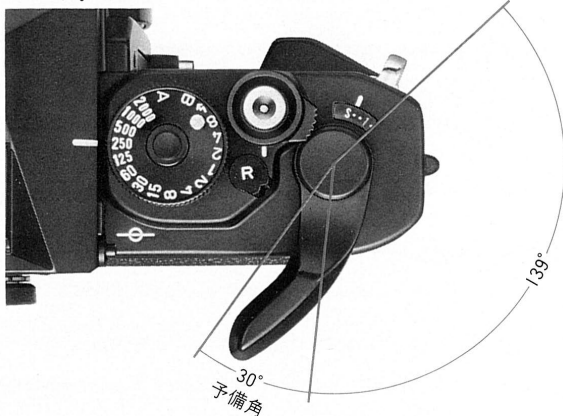
巻き上げレバーとシャッターリリース

巻き上げレバーはシャッターとフィルムの巻き上げおよび絞りとミラーの作動チャージなど内部機構の撮影準備を一度に行うものです。

巻き上げレバーを止まるまで回し、シャッターボタンを押すと撮影が行われます。

巻き上げレバーを手前に引き出すと自然に停止する位置があります。これを操作をし易くする予備角といいます。ここからレバーを回してください。フィルムカウンターも1目盛り進みます。

また、巻き上げレバーは小刻みに反復操作が可能です。



シャッターボタンを押すと、測光ののちミラーが跳ね上がり、レンズが絞られ、シャッターが作動します。作動後はミラー、絞りとも元に戻り、直ちに次の巻き上げが可能となります。

- 巻き上げの途中ではシャッターボタンを押しても撮影はできません。確実に巻き上げてください。
- 次の巻き上げは、シャッターの作動が終了しないとできません。
- 本機には電動巻き上げ装置、AEパワーワインダーFNとAEモータードライブFNが用意されています。

シャッターボタンとロック機構

シャッターボタンは測光およびシャッター駆動に関するスイッチを兼ねています。第1ストロークで測光、第2ストロークで撮影が行われる2段式です。瞬間測光を生かすため、電磁レリーズ方式を採用していますから、ソフトタッチで測光と撮影を連続して行うことができます。

撮影しないときには、シャッターボタンロックレバーをL位置に回し、無駄写しや不用意なボタン押しによる通電(電池消耗)を防いでください。特にカメラバッグに収納して携帯するときに有効です。

なお、S位置はセルフタイマー位置です(セルフタイマー撮影は53ページ参照)。

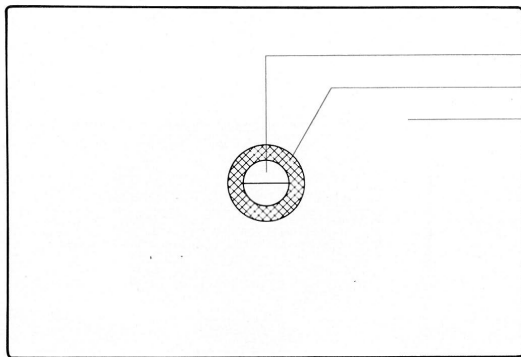
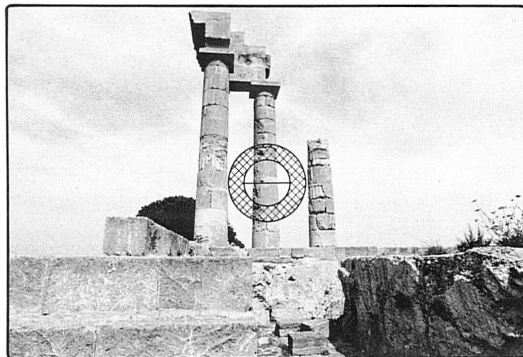
ケーブルレリーズの取り付け

ケーブルレリーズは、シャッターボタンに取り付けます。B露出や低速撮影など三脚使用時に操作をし易くするために用いられます。



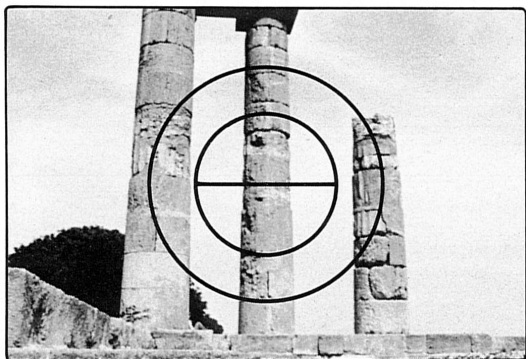
ピント合わせ

ファインダーを覗きながらレンズの距離リングを回して合わせます。ピントはファインダー内のどこでも合わせることができますが、通常は中央の距離計を使用します。

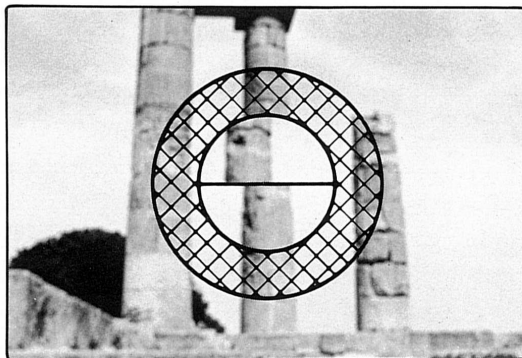


- ニュースプリットイメージプリズム
- マイクロプリズム
- マット

125



(ピントの合ったとき)



(ピント外れるとき)

1. ニュースプリットイメージプリズム

上下に分かれたボケ像がはっきりして、合致したときにピントの合った状態です。ピント外れの場合は上下像がずれていると同時に像もボケています。

2. マイクロプリズム

ギザギザした感じがなくなり、崩れた像が最もはっきり見えるときにピントの合ったときです。

3. マット

全体にボケている像が、最もはっきりしたときにピントの合った状態です。四隅まで使えるため書

類など平面的なものの複写などにも適します。

■開放F値の暗いレンズや絞り込み測光をすると、中央円形半分にやや色がついて見えますが、これは世界初のニュースプリットイメージプリズムを採用しているためです。ニュースプリットイメージプリズムは、暗いレンズを使用しても、これまでのようなかげりが生じません。常に明るい状態でピント合わせができます。

■このカメラは、好みや用途に応じてフォーカシングスクリーンを交換することができます。(詳しくは41～45ページをご覧ください)。

フィルムの入れ方

裏蓋の開け方

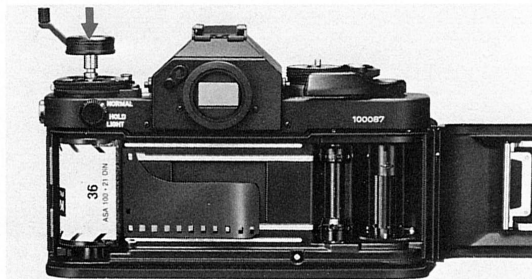
裏蓋を開けるときは、裏蓋開放安全ロックを押しながら巻き戻しノブを上引っ張ります。



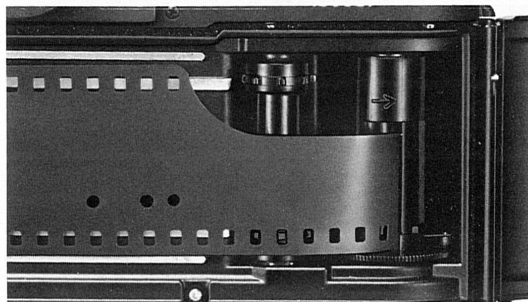
フィルムの入れ方

1. カメラにフィルムを入れ、巻き戻しノブを押し戻します。戻らないときはノブを軽く左右に回してください。

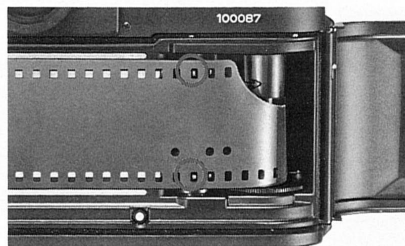
■お買い求め後、初めてカメラをご使用になるときは、圧着板についているプラスチックカバーを外して捨ててください。

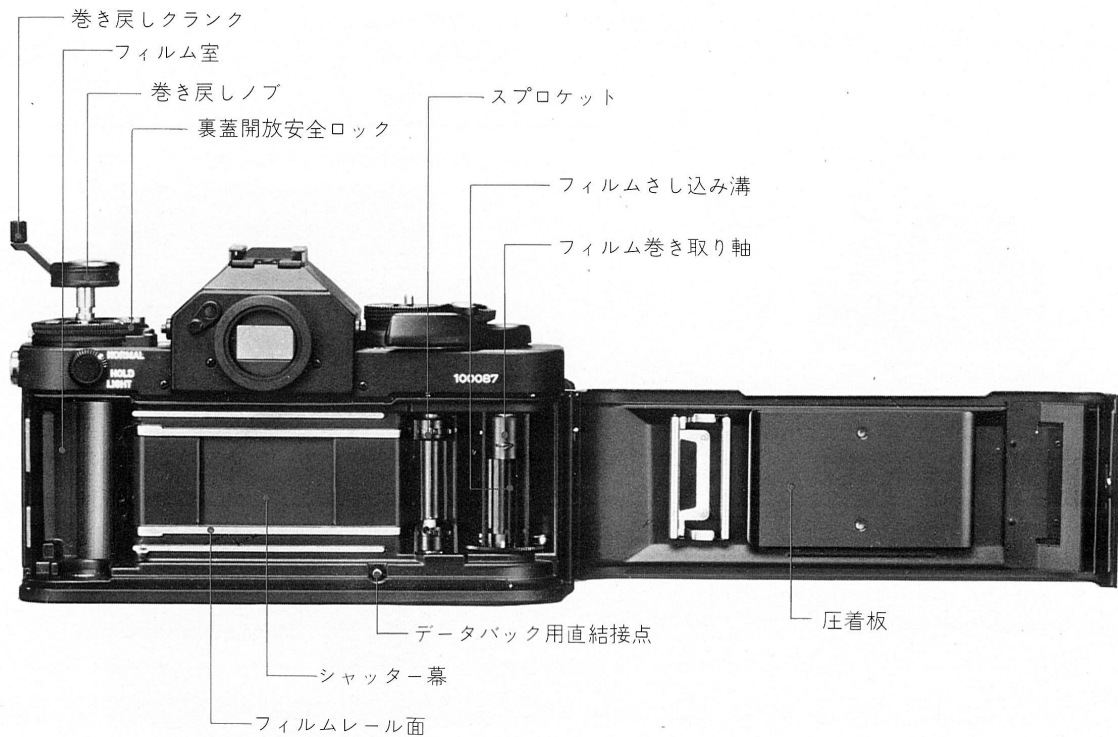


2. フィilm先端を巻き取り軸のフィルムさし込み溝に十分に差し込んでください。

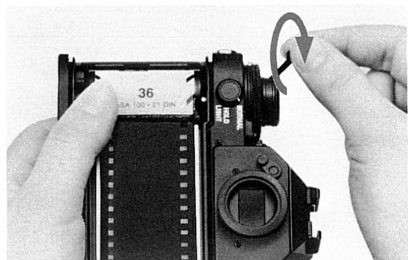


3. 巻き上げレバーをゆっくりと1回巻き上げ、巻き取り軸にフィルムを1回巻き付けます。フィルムの穴と○印の爪とが、かみ合う位置にあることを確認します。





4. フィルム出口を指で軽く押さえながら、巻き戻しクランクを矢印方向に静かに回してフィルムのたるみをとります。最後に巻き戻しクランクを倒します。



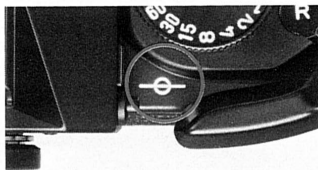
5. 裏蓋を閉じます。

6. フィルムカウンターに1が表示されるまで、巻き上げとシャッターボタンを押す操作（空写し）を繰り返してください。

- フィルムを入れるときに、シャッター幕、フィルムレール面、圧着板等に手を触れないでください。
- フィルムの巻き上げに連動して、巻き戻しノブが回ればフィルムは順調に送られています。
- カメラ底部の巻き戻しカブラーカバーは、モータードライブ装着時以外は外さないでください。外すとフィルムが感光しますので、ご注意ください。

フィルム位置マーク

レンズの距離目盛りは、このマークからの距離を目盛ったものです。フィルム位置マークは一般撮影時は使用しませんが、接写・拡大撮影時にフィルム位置から被写体までを実測してカメラ位置を決める場合に使用します。



メモホルダーの利用

カメラ裏蓋のメモホルダーは、フィルム包装箱の名称表示部を切り取って差し込めるようになっています。ご利用ください。



フィルムカウンター

フィルムを巻き上げるごとに、フィルムカウンターが1目盛りずつ進みます。目盛りはSから始まり、39まで目盛ってあります。なお、1, 12, 20, 24, 36は橙色で目盛ってあります。

■フィルムカウンターは、フィルムの巻き戻しに連動しません。

フィルム感度の合わせ方

フィルム感度はフィルム包装箱に記してあります。フィルム感度はフィルム感度表示窓の指標に合わせます。合わせるときは、感度ロックボタンを押しながら、感度セッティングを回します。



使用できるフィルム感度は次のようになります。

(8)(10) (16)(20) (32)(40) (64)(80) (125)(160) (250)(320) (500)(640)
6 · · 12 · · 25 · · 50 · · 100 · · 200 · · 400 · ·

(1000)(1250) (2000)(2500) (4000)(5000)
800 · · 1600 · · 3200 · · 6400

露 出

フィルムに光を与えることを露出といいます。露出の調節は、シャッターと絞りとの組み合わせで行い、適切な量の光がフィルムに当たることを適正露出といいます。シャッターは時間の長短で光量を調節し、絞りは絞り径の大ききで光量を調節します。

カメラはシャッターと絞りを組み合わせて、常にフィルムが適正露出になるようにしますが、この組み合わせを変えると写真表現も大きく変わってきます。したがってシャッターと絞りの役割りを十分にご理解いただくことは、写真上達の第一歩といえます。

なお、カメラのメーター（露出計）を使用すれば、誰でも簡単に適正露出を決めることができます。

写真をご覧ください。シャッターと絞りを変えると同じ被写体でも異なった感じに写ることがわかると思います。

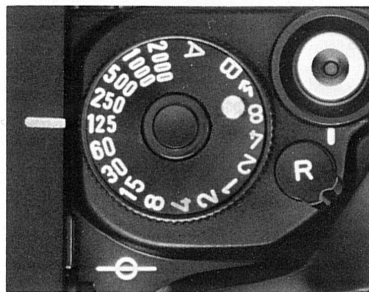


シャッターと絞り

シャッターダイヤル

シャッター

このカメラは、機械制御式シャッターと電気制御式シャッターを併用したキヤノン独自のユニークな高性能シャッターを内蔵しています。



機械制御式シャッターは $\frac{1}{2000}$ 秒～ $\frac{1}{125}$ 秒、 $\frac{1}{2}$ 秒($\frac{1}{90}$ 秒), B(バルブ), 電気制御式シャッターは $\frac{1}{60}$ 秒～8秒です。なお、キヤノンAEファインダー-FNを取り付けて絞り優先AEにすると、 $\frac{1}{1000}$ ～8秒までが電気制御式シャッターとなります。

なおシャッターレリーズは瞬間測光を生かす電磁レリーズ方式を採用しています。

シャッターダイヤルの役目

シャッターダイヤルは、シャッタースピードを決めるもので、被写体の動きを自由に表現できます。つまり、被写体を止めて写すこともぶらして写すこともできるわけです。

2000～8の目盛り

シャッターダイヤル上の125, 250……などの数字は、シャッタースピードで $\frac{1}{125}$ 秒, $\frac{1}{250}$ 秒などの分母を目盛ったものです。ただし、黄色の数字, 2, 4, 8は秒を表します。

- シャッターダイヤルの目盛り中間は使用できません。またAとBとの間は回りません。
- シャッタースピードはシャッターダイヤルに連動して、ファインダー内右側のメーター情報窓下部に表示されます。
- 長時間露出を途中解除する場合は、バッテリーチェックボタンを押してください。(但しBは除く)

Aマーク

AマークはキャノンAEファインダーFNを取り付けて、絞り優先AE撮影をするときのセット位置です。AEファインダーを取り付けてAにするとファインダー視野外下側にシャッタースピードが表示されます。セットするときはシャッターダイヤル外周を持ち上げて回します。

⚡位置

専用ストロボ キヤノンスピードライト以外のストロボを使用する場合にセットする位置です。このときのシャッタースピードは $\frac{1}{90}$ 秒です。

B(バルブ)位置

8秒以上の長時間撮影を行うときにセットする位

置です。Bにセットするとシャッターボタンを押している間は、シャッターが開いたままとなります。バルブ撮影ではロック付きケーブルレリーズをシャッターボタン先端にねじ込んでご使用ください。なお、バルブ位置は機械制御式ですから、電池は消耗しません。

電池消耗時のシャッタースピード

万一、電池が消耗してもメカニカル制御範囲 $\frac{1}{2000}$ 秒 \sim $\frac{1}{125}$ 秒、⚡($\frac{1}{90}$ 秒)およびBが使用できます。なお、電池消耗時はカメラから電池を抜き取ってください。抜き取らないとシャッターは作動しません。

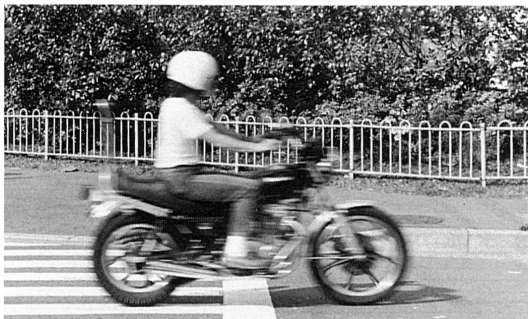
- 電池を抜き取ると $\frac{1}{60}$ 秒 \sim 8秒は、すべて $\frac{1}{90}$ 秒となります。また露出計、セルフタイマー等電池を必要とする作動は全くできません。またAE撮影もできません。

シャッタースピードが及ぼす写真効果

1. 下の写真はシャッタースピードを速くして、動きを止めたものです。



2. 下の写真はシャッタースピードを比較的遅くして撮ったものです。



3. 下の写真は被写体の動きに合わせてカメラを動かしながら撮影したものです。そのため背景が流れて一層流動感が感じられます。



このようにシャッターダイヤルの目盛りを変える
と、同じ被写体でも違った感じになります。

■ シャッターボタンを押したときに、カメラが動くと、シャープな写真は撮れません。これを手ぶれといいます。一般に手ぶれを防ぐにはレンズの焦点距離以上のシャッターダイヤル目盛りを選ぶとよいといわれています。

例えば、使用レンズが100mmならば、シャッターダイヤルを $\frac{1}{25}$ 秒以上にセットするわけです。しかし、50mm以下のレンズの場合は $\frac{1}{60}$ 秒を手持ち撮影の限界としてください。

絞り

絞りリングを回し、絞りを選択することによりピントの合う範囲を変えることができます。つまり近景から遠景までをシャープに写すことも、近景・遠景をぼかしてメイン被写体だけをシャープに写すこともできます。

絞り値

絞りリングは絞りの大きさを調節します。

絞りリング上の数字が絞り値です。絞り値は絞りがどれだけ光を通すかということを示す数字で表したものです。絞り値は数字の頭にF(エフ)を付けてF4, F5.6などと呼びます。

絞り値が1段大きくなるごとに、絞りを通る光量は半分になり、1段小さくなるごとに光量は2倍になります。

絞り値ごとの光量はF2を基準とすると表のようになります。なお、絞り値は目盛り中間も使えます。レンズによって開放絞り値(レンズのいちばん小

さな数値)と、次の絞り値との間の光量調節が半分にならないものがあります(例 F1.8)。

適正露出とは決められた一定量の光がフィルムに当たることです。シャッタースピードを変えれば絞り値も変えなければなりません。つまり、シャッタースピードを1段速くすれば、絞りを1段開けなければなりません。しかし、絞りを変えると、シャープに写る範囲が変わってきます。このシャープに写る範囲を**被写界深度**と呼びます。

被写界深度が変わると、写真のイメージが大きく変わります(被写界深度については48~50ページ参照)

F	(1.2)	1.4	(1.8)	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32
光量比	(3)	2	(1¼)	1	½	¼	⅛	⅙	⅓	⅙	⅓	⅙

■ 絞りリングのAマーク位置は、AEモータードライブFNまたはAEパワーウィンダーFNを取り付けてシャッター優先AE撮影を行うときにセットするマークです。カメラ単体で絞りリングをAマークにセットしても、シャッターが切れない安全機構が働きます。



測光方式について

《開放測光》

レンズの絞りが開放のままで、露出を測る方法を開放測光といいます。開放測光は、常に明るい視野を見ながら露出を決めることができます。このカメラはFDレンズを使用して、次の3通りの開放測光撮影ができます。

1. 追針式マニュアル

ファインダー内のメーター指針の指示に従って、絞りリングを回して追針を重ね合わせる方式です。デジタル式と異なりファインダー内で連続した露出情報を読み取ることができるので、微妙な露出調整が可能です。

2. シャッター優先AE

シャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に決まる方式です。動く被写体に適します。レンズの絞りはAマークにセットします。

■このカメラの場合はAEモータードライブFNまたはAEパワーワインダーFNを取り付けると、シャッター優先AE撮影が可能となります。



3. 絞り優先AE

絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてシャッタースピードが自動的に決まる方式です。動きのない被写体に適します。

■このカメラはAEファインダーFNを使用したときに、絞り優先AE撮影が可能となります。

《絞り込み測光》

撮影するときの状態まで絞りを閉じて露出を測る方法を絞り込み測光といいます。絞り込み測光は接写拡大撮影をするときに使用すると効果的です。カメラの絞り込みレバーを押して、指を離すと絞り込みレバーが飛び出します。この状態で、レンズの絞りリングを回すと絞りが開閉しますので、絞り込み測光が可能となります。

絞り込み測光は全てのレンズでできますが、FDレンズを絞り込み測光で使用するときには、F2.8以上の小絞りをご使用ください。

このカメラは、次の2通りの絞り込み測光が可能です。

1. 絞り込み指標合わせ

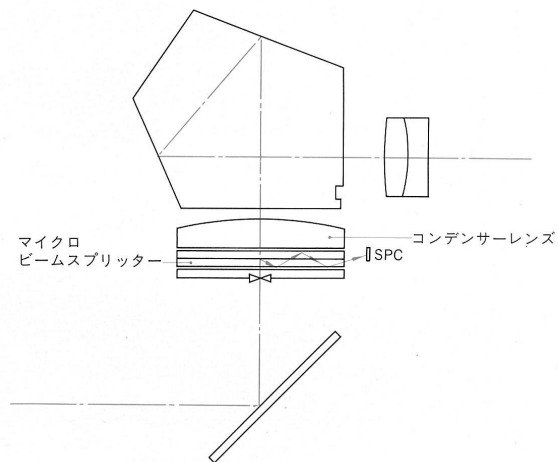
ファインダー内の絞り込み測光指標に指針を重ねて適正露出を決める方法です。指針を絞り込み測光指標に重ねるときは、シャッターダイヤルまたは絞りリングで行います。

2. 絞り込みAE

シャッターダイヤルをAにセットして絞り値を決めると、シャッタースピードが自動的に決まる方式です。絞り込みAEは、AEファインダーFNを取り付けた場合に可能です。

測光素子位置

ピントガラスとコンデンサーレンズの間に設けられた特殊光学素子内のマイクロビームスプリッターで、光の一部を反射させて後方のSPC(シリコンフォトセル)に導びき測光します。第2の焦点面であるピントガラス部の光を測ることから、この測光方式を焦点測光と呼びます。焦点測光はキヤノン独特のものです。







露出の決め方

このカメラは、測光範囲の広い高精度露出計を内蔵しています。メーター（露出計）はシャッタースピード、絞りおよびフィルム感度に連動しますので、簡単に適正露出を決めることができます。

また、このカメラはファインダーと電動フィルム巻き上げ機との組み合わせで、露出測光の操作方法が下の表のようになります。

	測光方式	F-1 単体	AEモータードライブFN AEパワーワインダーFN
●アイレベルファインダーFN付 	開放測光	追針式マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> ●シャッター優先AE ●追針式マニュアル
	絞り込み測光	絞り込み指標合わせ	絞り込み指標合わせ
●AEファインダーFN付 	開放測光	<ul style="list-style-type: none"> ●絞り優先AE ●追針式マニュアル 	<ul style="list-style-type: none"> ●シャッター優先AE ●絞り優先AE ●追針式マニュアル
	絞り込み測光	<ul style="list-style-type: none"> ●絞り込みAE (実絞りAE) ●絞り込み指標合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ●絞り込みAE (実絞りAE) ●絞り込み指標合わせ

- アイレベルファインダーFN付きをお買い求めの方は28～31ページをお読みください。
- AEファインダーFN付きをお買い求めの方は32～37ページをお読みください。

アイレベルファインダーFN



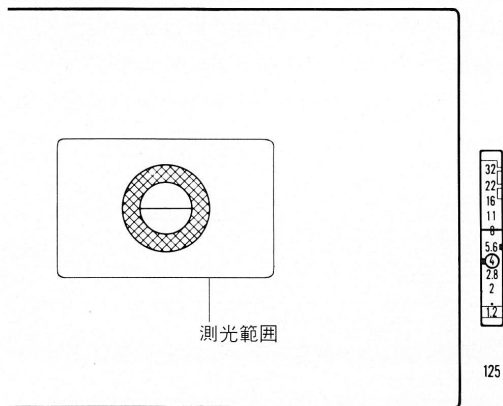
写真はアイレベルファインダーです。

測光分布について

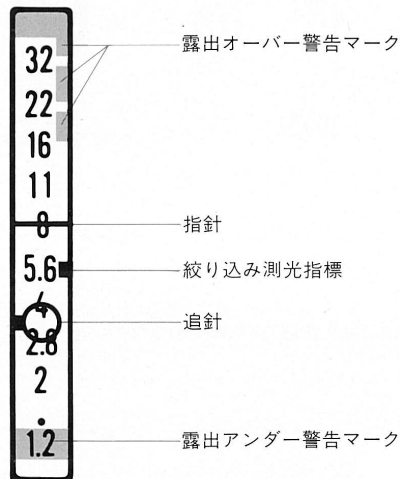
アイレベルファインダー付き仕様カメラの場合の測光分布は、中央部分測光です。なお、フォーカシングスクリーンを交換することによって測光分布を変えることができます(41, 42ページ参照)。

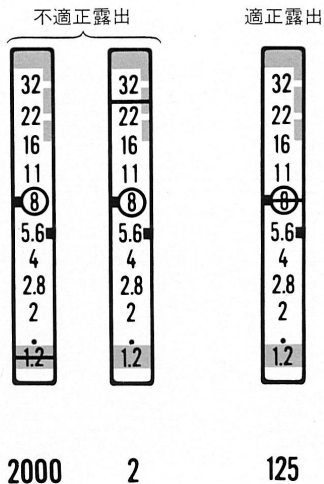
追針式マニュアル

1. シャッタースピードをセットしてください。室内では $\frac{1}{60}$ 秒、戸外では曇り $\frac{1}{125}$ 秒、晴れ $\frac{1}{500}$ 秒程度にセットします。(ASA100のフィルムするとき)
2. ピントを合わせます。
3. ファインダー中央部に薄く影のように見える長方形の測光範囲を被写体の露出を測りたい部分に合わせます。
4. 軽くシャッターボタンを押して、右側の指針を見ます。指針が上と下の赤マークの間にあることを確認します。



5. 絞りリングを回して追針の丸の中心を指針に重ね合わせます。これで適正露出になります。
6. 構図を決め撮影します。





- 追針の運動範囲は使用レンズの開放絞り値と最小絞り値の範囲です。メーター情報窓一杯は動きません。
- Bまたは $\frac{1}{2}$ 位置では測光できません。

露出アンダー警告マーク

露出アンダー警告マークの位置は、取り付けレンズの開放F値によって変わります。指針がこのマーク以下に振れたときは、指針が露出アンダー警告マークより上に振れるようにシャッタースピードを遅くしてください。

露出オーバー警告マーク

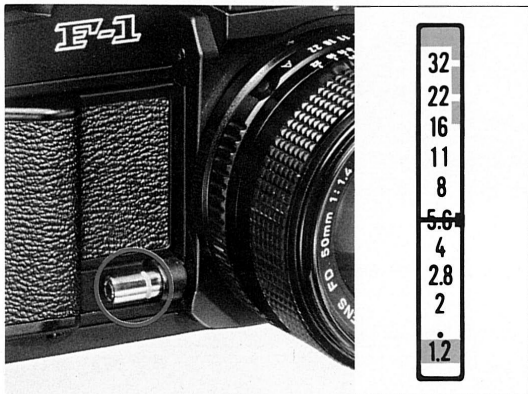
ファインダー内のF32, F22, F16の右にある赤マークが露出オーバー警告マークです。それぞれ使用レンズの最小絞り値に照らし合わせてご使用ください。

指針がこのマーク以上に振れたときは、露出オーバー警告マークより下になるようにシャッタースピードを速くするか、NDフィルターをご使用ください。

- 追針の丸の直径は約1絞りに相当します。したがって微妙な露出の調整をファインダー内で行うことができます。

絞り込み指標合わせ

1. シャッタースピードを決め、ピントを合わせます。
2. 絞り込みレバーを押し、指を離すと絞り込みレバーが飛びだします。この状態で絞りリングを回せば絞りが開閉します。
なお、ファインダー内の追針は、絞り込みレバーが飛びでると同時に、メーター情報窓外に逃げて見えなくなります。



3. ファインダー中央部に薄く影のように見える長方形の測光範囲を被写体の露出を測りたい部分に合わせます。
4. 絞りリングを回して、指針を絞り込み測光指標(バッテリーチェック兼用)の中心に合わせます。これで適正露出です。
5. 構図を決め撮影します。

■絞りリングを回しても、指針が絞り込み測光指標より下にあるときはシャッタースピードを遅くし、上にあるときはシャッタースピードを速くしてください。なお、指針はシャッターダイヤルまたは絞りのいずれにも連動します。従って、絞り値を先にきめて撮影するときは、シャッターダイヤルを回して露出を決めてください。

■シャッターダイヤル目盛りの中間は使えませんので、露出の微調整は絞りリングで行ってください。

■絞り込み測光指標の幅は約 $\frac{1}{2}$ 絞りに相当しますので、微妙な露出の調整がファインダー内で可能です。

■FDレンズを直接カメラに取り付けて絞り込み測光を使用するときは、F2.8以上の小絞りをご使用ください。

AEファインダーFN



写真はAEファインダーFNです。

測光分布について

AEファインダーFN付き仕様カメラの場合の測光分布は、中央部重点平均測光です。なお、フォーカシングスクリーンを交換することによって測光分布を変えることができます(41, 42ページ参照)。

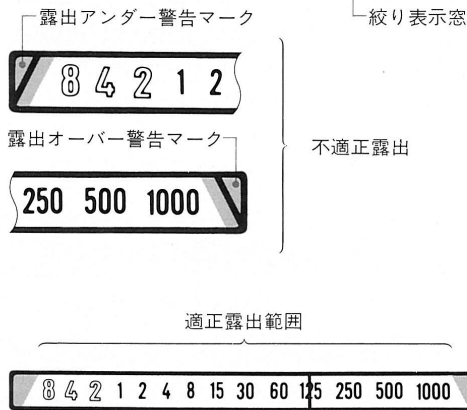
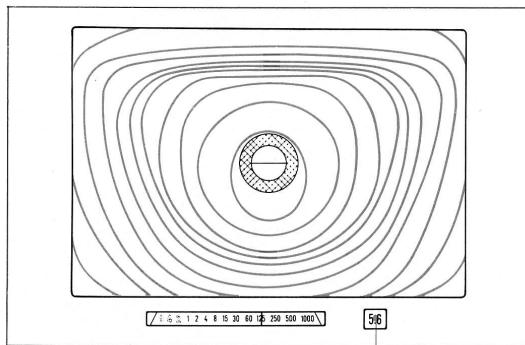
絞り優先AE

1. シャッターダイヤルをAマークにセットします。Aマークにセットするときは、シャッターダイヤル外周を持ち上げて回します。Aマークの解除は逆の要領で行います。



2. Aマークにセットするとファインダー下側にメーター情報としてシャッタースピードが表示されます。AマークのセットはAEファインダーを取り付けた後に行ってください。逆にするとシャッタースピードを読み取るメーター情報がファインダー視野下部に表示されません。
3. ファインダーを覗いてピントを合わせます。
4. 軽くシャッターボタンを押して露出を測ります。指針が左右の赤マークになれば適正露出です。光の感じ方はメイン被写体が適正になるように配慮した中央部重点平均測光式です。(図参照、但し

測光分布は目で確かめることはできません)



5. シャッターボタンを押して撮影します。

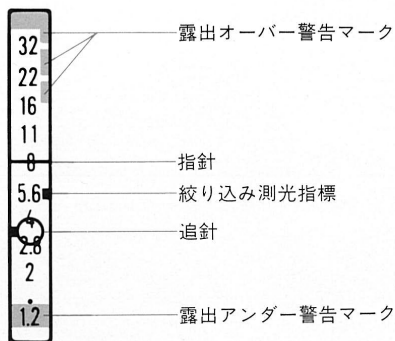
- シャッタースピードが遅くなると、手ぶれを起こし易くなりますので、絞りリングを回して極力速いシャッタースピードをセットしてください。(21ページ参照)
- レンズの絞り値をファインダー内の絞り表示窓で読み取ることができます。ただし、締め付けリングタイプのレンズおよびエクステンションチューブを併用した場合は、読み取ることはできません。
- レンズのAマークは、シャッター優先AE撮影の際のセット位置ですから、Aマークにセットするとシャッターボタンは押せない安全設計になっています。シャッター優先にするときは、AEモータードライブFN、またはAEパワーワインダーFNを併用してください。
- AEファインダーFN以外のファインダーでは、絞り優先AE撮影はできません。
- TSレンズおよびオートベローズの中で、取り付けるとAEファインダーに当たり回転できないものがありますが、その際は最寄りのキヤノンサービスステーションにご相談ください。

追針式マニュアル

シャッターダイヤルのAマークを解除すると、メーター情報が右側に切り換わって指針と追針とが表れますので、追針式マニュアル撮影ができます。ただし、このファインダー付きでお求めの場合は、中央部重点平均測光のマニュアル撮影となります。

1. シャッタースピードをセットしてください。室内では $\frac{1}{60}$ 秒、戸外では曇り $\frac{1}{125}$ 秒、晴れ $\frac{1}{500}$ 秒程度にセットします。(ASA100のフィルムの場合)
2. ピントを合わせます。
3. 軽くシャッターボタンを押して右側の指針を見ます。指針が上と下の赤マークの間にあることを確認します。
赤マークやそれを越えた位置を指しているときは、シャッタースピードのセットが適正でない場合ですから、シャッターダイヤルを回して指針を適正露出範囲にセットしてください。シャッタースピードはメーター情報窓の下に表示されます。
4. 絞りリングを回して追針の丸の中心を指針に重ね合わせます。これで適正露出になります。

■追針の丸の直径は約1絞りに相当します。したがって微妙な露出の調整をファインダー内で行うことができます。



- 追針の連動範囲は、使用レンズの開放絞り値と最小絞り値の範囲です。メーター情報窓いっぱいには動きません。
- BまたはM位置では測光はできません。

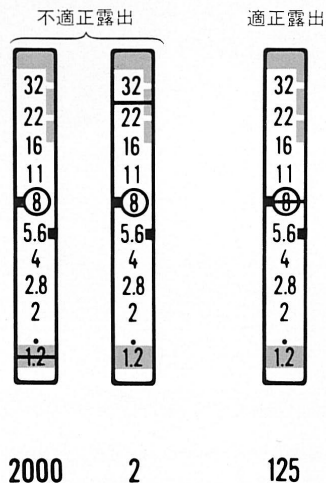
露出アンダー警告マーク

露出アンダー警告マークの位置は、取り付けレンズの開放F値によって変わります。指針がこのマーク以下に振れたときは、この警告マークより上になるようにシャッタースピードを遅くしてください。

露出オーバー警告マーク

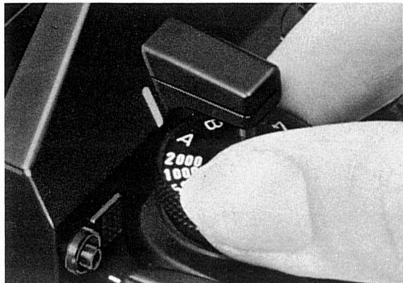
ファインダー内のF32、F22、F16の右にある赤マークが露出オーバー警告マークです。それぞれ使用レンズの最小絞り値に照らし合わせてご使用ください。

指針がこのマーク以上に振れたときは、このマークより下になるようにシャッタースピードを速くするか、NDフィルターをご使用ください。



絞り込みAE

1. シャッターダイヤルをAにセットします。



2. ピントを合わせ、絞り込みレバーを押すと、絞り込みレバーが飛びだします。

3. 絞り値を決めると、それに対応したシャッタースピードが自動的に決まります。

■ 左右の露出警告マークに指針がある場合は、絞りリングを回して適正露出範囲にセットしてください。



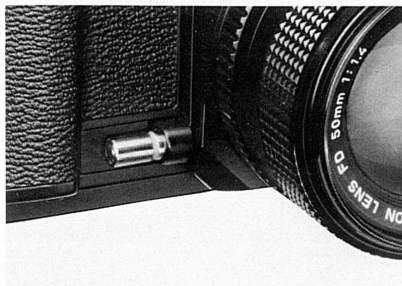
絞り込み指標合わせ

1. シャッタースピードを決め、ピントを合わせます。

■絞り込み指標合わせは、シャッターダイヤルがAマーク位置ではできません。

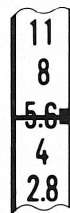
2. 絞り込みレバーを押し指を離すと、絞り込みレバーが飛び出します。この状態で絞りリングを回せば絞りが開閉します。

なお、ファインダー内の追針は、絞り込みレバーが飛び出ると同時に、メーター情報窓外に逃げて見えなくなります。



3. 構図を決めます。

4. 絞りリングを回して、指針を絞り込み測光指標(バッテリーチェック指標兼用)の中心に合わせます。これで適正露出です。



■絞りリングを回しても、指針が絞り込み測光指標より下にあるときは、シャッタースピードを遅くし、上にあるときはシャッタースピードを速くしてください。なお、指針はシャッターダイヤルまたは絞りのいずれにも運動します。従って、絞り値を先に決めて撮影するときは、シャッターダイヤルを回して露出を決めてください。

■シャッターダイヤル目盛りの中間は使えませんから、露出の微調整は絞りリングで行ってください。

■絞り込み測光指標の幅は、約 $\frac{1}{2}$ 絞りに相当しますので、微妙な露出の調整がファインダー内で可能です。

■FDレンズを直接カメラに取り付けて絞り込み測光で使用するときは、F2.8以上の小絞りをご使用ください。



メーターモードセクター

メーターはシャッターボタンを軽く押すと（第1ストローク）作動します。必要に応じて次のようなモードが選べます。

● NORMAL

シャッターボタンを軽く押ししている間だけ、メーターが作動します（ $\frac{1}{2}$ 、B位置は除く）。AE撮影などの場合に使用します。



● HOLD

シャッターボタンを軽く押すと、16秒間はメーターが作動します。追針式マニュアル測光やシャッターダイヤルを回すときなどに使用します。16秒後は自動的に回路が切れ、再び軽く押すと作動します。

● LIGHT

カメラ本体のメーター情報採光窓を照明しますので、メーター情報の読み取りにくい暗い場所での撮影の際にセットしてください。

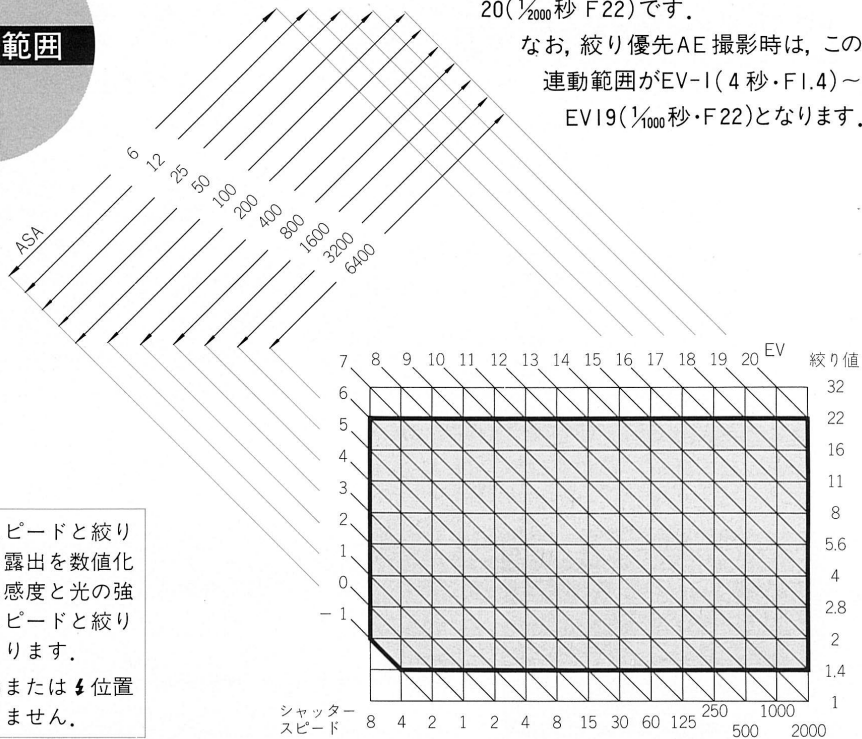
照明およびメーターの作動は16秒間です。なお、AEファインダーFNを使用して絞り優先AE撮影をするときのメーター情報窓（シャッタースピード表示）は照明できません。

- 不必要時はNORMAL位置にセットして、電池消耗を防いでください。
- メーターの測光回路と照明回路は、シャッターの作動時とバッテリーチェックボタンを押したときに切れる節電設計となっています。

メーターの連動範囲

メーターの連動範囲はASA100のフィルム
F1.4レンズ使用でEV-1(4秒F1.4)～EV
20($\frac{1}{2000}$ 秒 F22)です。

なお、絞り優先AE撮影時は、この
連動範囲がEV-1(4秒・F1.4)～
EV19($\frac{1}{1000}$ 秒・F22)となります。



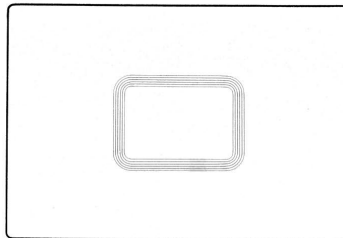
■ EV値とはシャッタースピードと絞りの組み合わせで決まる露出を数値化した尺度で、フィルム感度と光の強さまたはシャッタースピードと絞り値の組み合わせで決まります。

■ シャッターダイヤルがBまたは $\frac{1}{2}$ 位置ではメーターは作動しません。

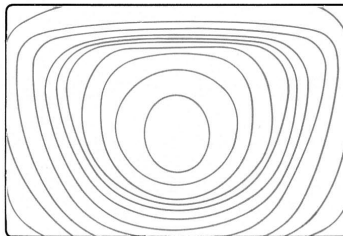
測光方式(感度分布)の切り換え

このカメラは、ファインダー交換によるマニュアル(手動)測光、AE(自動)測光の切り換えに加えて、被写体状況や撮影意図に応じて、測光感度分布を切り換えることができます。測光感度分布の切り換えは、フォーカシングスクリーンを交換するだけです。これはキヤノン独自の新光學素子(マイクロビームスプリッター)の開発によって、はじめて可能となったものです。測光感度分布の切り換え種類と感度分布は右のようになります。

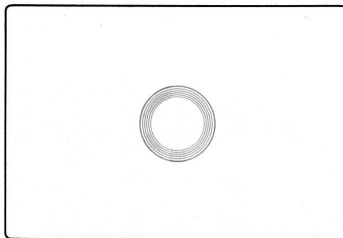
- 測光範囲は中央部重点平均測光以外は、目で確かめることができます。ファインダーを覗いて図の位置に薄く影のように見える部分が測光範囲となります
- 測光感度分布はレンズを変えてもほとんど変化のない優れたものです。



中央部部分測光(P)





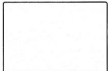
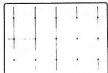
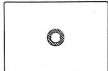
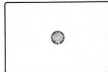
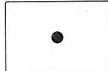
中央部重点平均測光(A)


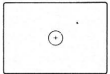
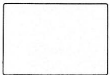
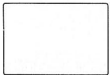
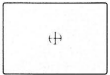
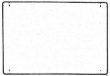


中央部スポット測光(S)

フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンは、測光感度分布別に分けると3種類ですが、各種別では次表の通りです。

フォーカシングスクリーンのタイプと名称	測光感度分布別			用途と特徴	
	中央部重点 平均測光(A)	中央部部分 測光(P)	中央部 スポット測光(S)		
A 標準マイクロ		○	○	○	一般、全レンズに使用可能 F5.6より暗いレンズ及び接写では、マイクロプリズムにカゲリを生ずる。
B ニュースプリット		○	○	○	一般、全レンズに使用可能 従来のスプリットイメージはF5.6より暗いレンズではカゲリを生じたが、ニュースプリットはカゲリを生じない。
C 全面レーザーマツト		○	○	○	一般、全レンズに使用可能
D 方眼レーザーマツト		○	○	○	全レンズに使用可能、目盛り線がある為、構図の決定に有効、TSレンズに最適、また、複写にも有効。
E ニュースプリットマイクロ		○	○	○	一般、全レンズに使用可能、標準装備、撮影者の好みや被写体に応じて、スプリット、マイクロ、マツトの3通りの測距ができる万能型。
F 大口径マイクロ		○	○	○	F1.2~F2.8の明るいレンズ用でピントが合わせ易く、精度(測距精度)がよい。 F3.5より暗いレンズではマイクロプリズムにカゲリを生ずる。
G 小口径マイクロ		○	○	○	F3.5~F5.6までの小口径レンズ用で、プリズム部にカゲリを生ずることなく測距ができる。 像のボケがゆるいので、F2.8より明るいレンズでは、やや精度が低くなる。

フォーカシングスクリーンのタイプと名称		測光感度分布別			用途と特徴
		中央部重点 平均測光(A)	中央部部分 測光(P)	中央部 スポット測光(S)	
H	目盛り入りレーザーマット 	○	○		接写、拡大撮影や顕微鏡写真に有効。目盛り線が中央及び周辺にあるため、撮影倍率や構図を決定するのに便利である。全レンズに使用可能
I	十字線入りレーザーマット 	○	○	○	中央十字線部空中像と十字線でビント合わせ可能。目を左右にふった時、素通しの像が十字線に対して動かなければビントが合っていることを示す。顕微鏡や天体撮影に有効
J	ブライトレーザーマットS 	○	○	○	標準レンズ用、(50mm～200mm最適)マットの中で一番明るい。 絞り込んでもカゲリを生じない。 300mm以上の望遠レンズを使用すると周辺光量不足となる。
K	ブライトレーザーマットT 	○	○	○	135mm以上の望遠レンズ用、マットの中で一番明るい、絞り込んでもカゲリを生じない。 接写、拡大撮影にも有効である。標準広角レンズを使用すると周辺光量不足となる。
L	クロススプリット 	○	○		縦横両方向の線を使用してビント合わせが可能。全レンズに使用可。 F5.6より暗いレンズ、及び接写では、スプリット部にカゲリを生ずる。
M	A/Bサイズフレームレーザーマット 	○	○		すべてのレンズに使用可能 印刷物規格目盛り(1:1.4)であるため、印刷を考慮したトリミングを行うのに便利。出版関係の撮影向き。

*中央部スポット測光は用途を考慮して、有効と思われるもののみ用意しました。



フォーカシングスクリーンの名称は下記のようになっています。

フォーカシングスクリーンFN-○○

測光感度分布の種類

フォーカシングスクリーンの種類

- 中央部重点平均測光はA(Average)表示
- 中央部部分測光はP(Partial)表示
- 中央部スポット測光はS(Spot)表示

したがって中央部部分測光のニュースプリットマイクロプリズムの場合は、フォーカシングスクリーンFN-PEとなります。

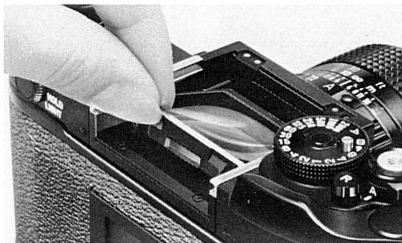
中央部重点平均測光のニュースプリットマイクロプリズムの場合は、フォーカシングスクリーンFN-AEとなります。

ファインダーの外し方とフォーカシングスクリーンの交換

- 1.外すときはファインダー両側のファインダー取り外しボタンを押しながら引っ張ります。
- 2.フォーカシングスクリーン後部の溝に爪先を入れて、持ち上げます。



3. 枠を持ち、指紋をつけないようにして外します。



4. 交換用フォーカシングスクリーンを入れます。入れる時は枠の白い方を後方にし、先端を押さえ金具の下に入れていきます。

5. ファインダーを取り付けます。取り付けるときは両側のレールによく合わせて取り付けてください。

- フィルムが入っている場合、ファインダー類の交換は直射日光を避け、素早く行ってください。
- フォーカシングスクリーンのレンズ部には手を触れないでください。ほこりがついた場合は、ゴム球付きのプロワーで吹き飛ばすか、柔らかい刷毛で軽く払うようにしてください。
- フォーカシングスクリーンを置くときは、裏返し（コンデンサーレンズを下）にして置いてください。外した状態で置くと、きずがつきますので、ご注意ください。



露出の補正

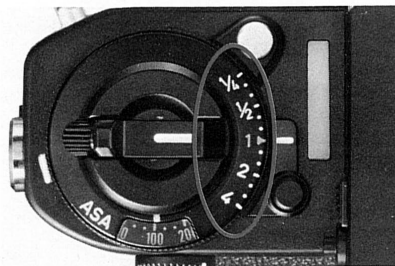
メインの被写体が露出アンダー、露出オーバーになるような場合(例えば逆光撮影・舞台撮影), また, ローキー, ハイキー調の写真を得たい場合, 増感・減感撮影などの場合は, 露出の補正をしてください。

露出の補正方法として, 次の3通りがあります。

- (1) 露出補正目盛りによる方法
- (2) マニュアル測光による方法
- (3) フィルム感度による方法

露出補正目盛りによる補正

1. 露出補正ロックボタンを押しながら, 露出補正目盛りダイヤルを回します。
2. 必要な目盛りを指標に合わせます。
3. 撮影後は目盛りを1に戻してください



■ 露出補正目盛りは露出倍数です。整数は露出を増やすとき, 分数は減らすときに使用します。

2および $\frac{1}{2}$ はシャッターまたは絞りで1段に相当し, 4または $\frac{1}{4}$ は2段に相当します。中間の目盛りは $\frac{1}{3}$ 段です。

■ 露出補正目盛りとフィルム感度の使用組み合わせは次のようになります。なお, 低感度側および高感度側では, 一部使用できない目盛りがあります。

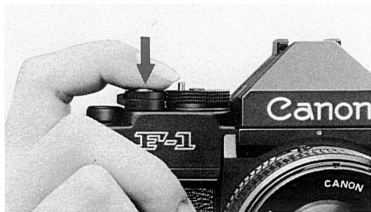
ASA 6	$\frac{1}{4} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1$
ASA12	$\frac{1}{4} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 2$
ASA25~1600	$\frac{1}{4} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 2 \cdot 4$
ASA3200	$\frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 2 \cdot 4$
ASA6400	$1 \cdot 2 \cdot 4$

■ 同一被写体でも使用フォーカシングスクリーンの測光感度分布によって, 露出補正の必要な場合と必要でない場合があります。

マニュアル測光による補正

追針式マニュアル測光の場合は、シャッタースピードに対する適正絞り値をファインダー内の指針位置で読み取ることができますので、次のようにしてください。

1. シャッターボタンを軽く押して、絞り値を読み取ります。例えばF16とします。



2. 絞りを3段開いて補正したいときは、読み取ったF16に補正量を加え、つまりF5.6に追針をセットします。これで希望の露出が得られます。

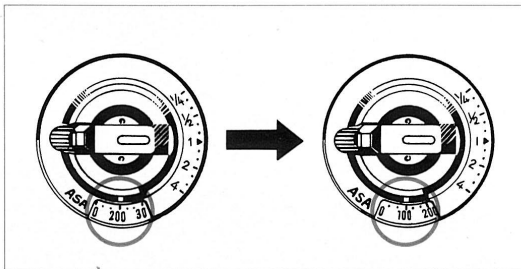


■ 太陽光や強い照明光がバックに入り込むときには、補正量を大きくする必要がありますので、この方法が有効です。

■ 追針の丸は約1絞りに相当しますので、これを利用した補正もできます。

フィルム感度による補正

フィルム感度数値が半分になると露出量が2倍になる関係にありますので、フィルム感度目盛りをセットし直せば露出の補正ができます。撮影後はASA感度を元に戻してください。



(露出補正に関する一般的な注意)

- 増感・減感撮影では、フィルム感度による補正が有効です。
- 増減感撮影を行う場合には、1本のフィルムの途中で補正値を変えないでください。
- 補正量をきめにくい場合には、前後に $\frac{1}{3}$ 段程度または $\frac{1}{2}$ 段程度、目盛りを変えて撮影してください。

被写界深度

ある被写体にピントを合わせると、出来上がった写真はその被写体だけでなく、前後の風景などもはっきりと写っています。このはっきり写っている範囲のことを被写界深度といいます。

被写界深度は絞りと撮影距離によって変わります。

被写界深度の性質

- 1.絞りを開く(絞り値は小さい)ほど浅くなり、絞りを絞る(絞り値は大きい)ほど深くなります。
- 2.被写体が遠くなるほど深くなります。
- 3.ピント合わせ位置を基準として、手前よりうしろの方が深くなります。
- 4.広角レンズと望遠レンズでは、同じ絞り値でも広角レンズの方が深くなります。(距離が同じ場合)



被写界深度の確認のしかた

被写界深度は、次の2つの方法で確認できます。

絞り込んで確認する方法

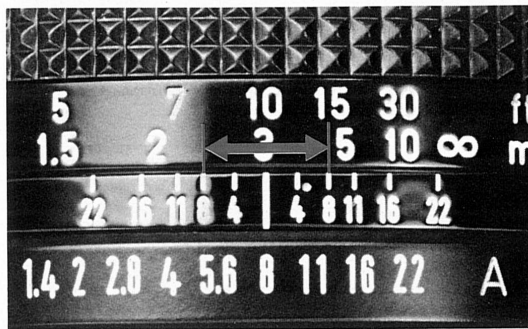
- 1.ピントを合わせ、露出を決めます。
- 2.絞り込みレバーを押して離すと、絞り込みレバーが飛びだして、セット絞り値まで絞りが閉じます。ファインダーを覗いてはっきり見える範囲が被写界深度です。
- 3.希望の被写界深度を得たいときは、絞りリングを回して調節します。



レンズの被写界深度目盛りから確認する方法

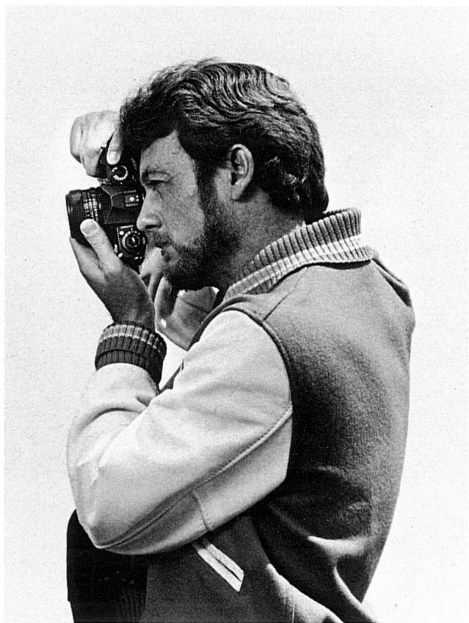
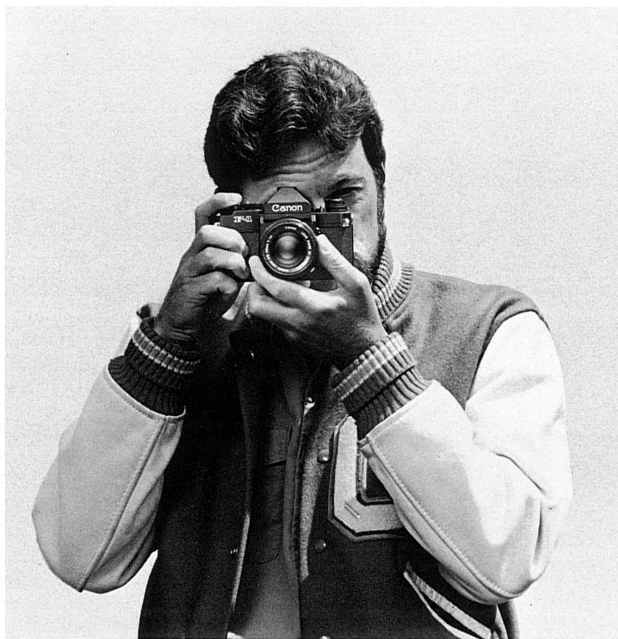
レンズ指標両側の被写界深度目盛りから読み取る方法です。被写界深度は、距離目盛りに関連づけて目盛っておりますので、距離目盛りから読み取ることができます。

例えば絞り値F8で3mの被写体を撮影するとします。F8に対応する距離目盛りを読むと、約2.5mから4.5の間がはっきり写ることがわかります。その都度ピント合わせのできないスナップ撮影は、この方法を利用します。



カメラの構え方

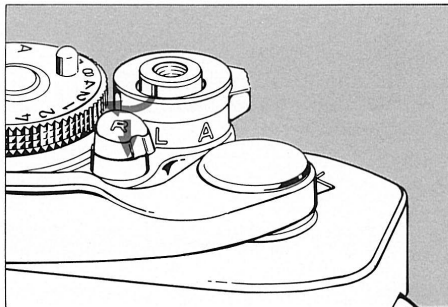
左手はピント合わせのし易いように持ちます。
右手はパームグリップを持ち、人差し指をシャッターボタンに軽くのせます。
左腕のひじを体に密着させ、カメラを額につけてファインダーを覗きます。
シャッターボタンを押すときは左手のひらでカメラを支えるようにして持ちます。
シャッタースピードが遅いときや望遠レンズを使用するときは、壁・柱・木など身近にあるものを利用するとよいでしょう。



フィルムの巻き戻し

フィルムが終了すると巻き上げができなくなりますので、フィルムカウンターを確認した後に巻き戻してください。

1. 巻き戻しセットレバーを矢印方向に回しながら押し付けます。巻き戻しセットレバーは押し込まれたままロックされます。



誤って巻き戻しセットレバーを押し込んでしまった場合は、軽くシャッターボタンを押してください。巻き戻しセットレバーが復帰します。

2. 巻き戻しクランクを引き起こし、矢印方向に回します。フィルムが巻き戻されている間は巻き戻し音がします。巻き戻し音がなくなったら、巻き戻しは終了です。
フィルムカウンターは巻き戻しに連動しません。



3. 裏蓋を開けてフィルムを取り出します。

セルフタイマー撮影

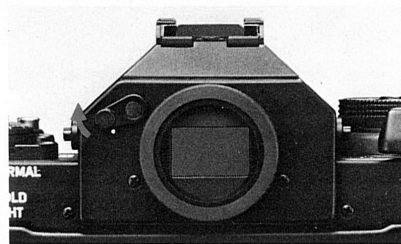
1. セルフタイマーレバー（シャッターボタンロックレバー兼用）を回して、Sマークを指標に合わせます。

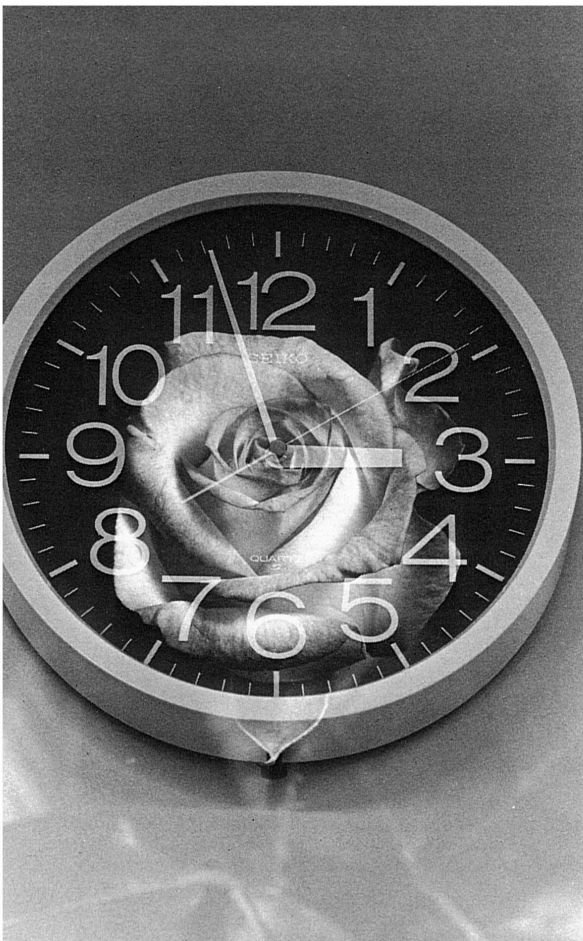


2. ピントを合わせ、露出を測ります。
3. シャッターボタンを押すと電子音がし、10秒後に撮影が行われます。なお、撮影2秒前に電子音が速くなります。

4. 撮影後はセルフタイマーレバーを元に戻してください。戻さないとセルフタイマー撮影が繰り返されます。

- セルフタイマーをスタートさせた後に、シャッタースピードを変えると、適正露出が得られません。またカメラの前に立ってシャッターボタンは押さないでください。
- セルフタイマー撮影の途中解除は、バッテリーチェックボタンを押してください。
- 接眼部から目を離して撮影するときは、逆入光防止のため、アイピースシャッターを閉じてください。閉じるときは、アイピースシャッターレバーを矢印方向に軽く回します。

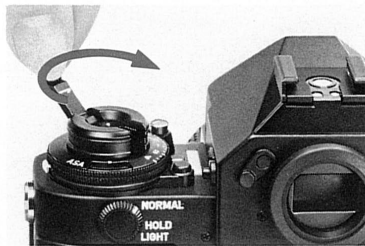




多重露出

同一画面に異った被写体や同一被写体を何回でも重ねて撮影することができます。これを多重露出といいます。

1. 巻き戻しクラックを軽く回して、フィルムのたるみをとっておきます。



2. 撮影をします。
3. 巻き戻しセットレバーを押し込みます。



4. 巻き上げレバーを回します。このときレバーは静かに回してください。フィルムは送られず、シャッターのチャージだけが行われます。
5. 2, 3, 4 の操作を繰り返せば何回でも多重露出が行われます。

- フィルムカウンターは、巻き上げの都度進みます。
- 多重露出をしてもフィルムは動かないよう考慮されていますが、多重回数が増えた場合や巻き上げ力が強い場合は、画面がわずかにずれることがあります。またフィルムの最初と最後の数コマは巻きぐせがありますので、避けた方が無難です。
- 一般に多重露出は背景が黒っぽいものから撮影し、黒の部分に次の被写体を重ねてゆきます。
- 多重露出のミスセットの解除は、シャッターボタンを軽く押してください。巻き戻しセットレバーが復帰します。

多重の露出補正

同一画面に繰り返し撮影する多重露出は、露出値を補正する必要があります。簡単な方法としては使用フィルム感度と露出回数の積を求め、フィルム感度としてセットする方法です。

例えばASA100で2回露出をするときは200をセットします。しかし、実際には被写体条件によって多少変わりますので感と経験を必要とします。

電動巻き上げによる多重露出

AEモータードライブFNおよびAEパワーワインダーFNを使用した場合は、連続多重露出となります。その際、シャッターレリーズはAEモータードライブFNおよびAEパワーワインダーFNで行ってください。カメラ側で行うと多重露出になりません。なお多重露出撮影終了後の1枚目はレンズキャップを取り付けた後に、カメラのシャッターボタンを押して空写しをしてください。

フラッシュ撮影



専用ストロボで日中戸外と同様に撮影

専用ストロボ キヤノンスピードライト 533G, 577G, Aシリーズストロボ(スピードライト 199A, 188A, 177A, 155A, 133A)を、このカメラに使用すれば、日中戸外と全く同様の操作でフラッシュ撮影ができます。

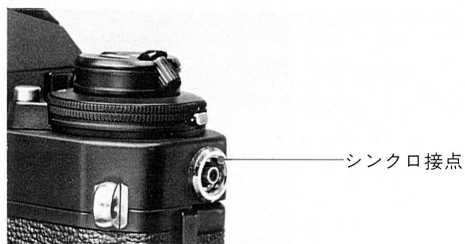
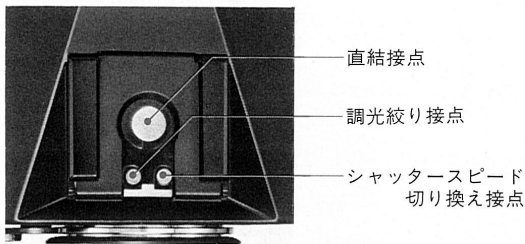
つまり、追針式マニュアル撮影、シャッター優先AE撮影または絞り優先AE撮影に関係なく、フラッ

シュ撮影が日中戸外同様の操作で行えるわけです。ストロボの充電完了信号が伝わると同時に、シャッター速度はどこにあっても自動的にX接点($\frac{1}{60}$ 秒)に切り変わります(ただしBは除く)。またAE撮影の場合、次の充電完了信号が入るまでは、カメラ側の回路に戻りますので、ストロボ撮影とAE撮影を交互に行うこともできます。

■ストロボの充電完了はファインダー内で確認できます。充電完了と同時に指針が調光絞り選択スイッチで選んだ絞り値を指します。絞り優先AE撮影時は $\frac{1}{90}$ 秒($\frac{1}{125}$ と $\frac{1}{60}$ の間)を指します。

専用ストロボの中でも、キヤノンスピードライト 533G, 577Gおよび199Aはスローシンクロ撮影機構を設けています。

スローシンクロ機構とは、フラッシュ撮影における背景の露出不足や特殊な撮影意図を表現可能とするために、低速シャッター速度でも利用できるようにしたものです。この場合シャッター速度を $\frac{1}{60}$ 秒～8秒の間にセットして使用してください。



■ アクセサリーシューをもたない交換ファインダーと専用スピードライトを使用するときは、ボディ側面のシンクロ接点をご使用ください。その際はシンクロコードAを併用し(133A, 188Aは使用不可)シャッターダイヤルは $\frac{1}{60}$ 秒に、絞りは調光絞り値にセットしてください。なお市販のグリップタイプのストロボを使用するときもボディ側面のシンクロ接点をご使用ください。

■ 市販の調光ストロボを使用するときは、シャッターダイヤルは $\frac{1}{60}$ 秒マーク、または $\frac{1}{60}$ 秒以下にセットしてください。また、絞りは調光絞り値にセットしてください。

■ フラッシュとシャッタースピードの同調範囲は下の表のようになります。

■ ホットシュータイプとコードタイプを併用する増光撮影もできます。

		$\frac{1}{2000}$	$\frac{1}{1000}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	2	4	8	$\frac{1}{60}$	B
スピードライト																		
バ ル ブ (閃 光 電 球)	FP							▲										
	M							▲										
	MF							▲										

□ 同調 ■ 同調せず ▲ バルブによりバラつきがあります。

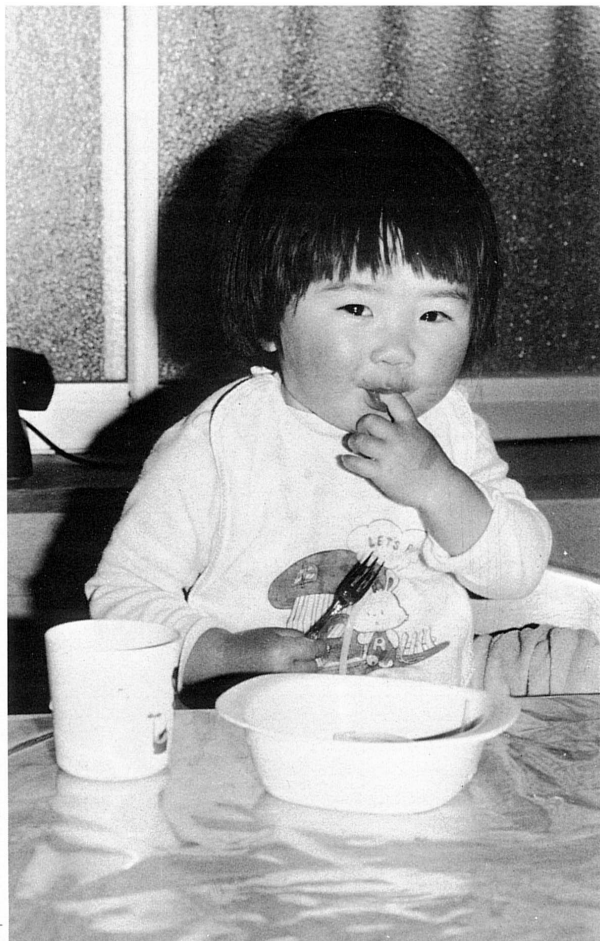
フラッシュバルブ、マニュアルストロボ撮影

バルブ(閃光電球)またはストロボをマニュアルで使用するとき、露出をガイドナンバー計算から求めてください。ガイドナンバーはバルブやストロボに記されていますので、次の計算から絞り値を決めます。

$$\frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮影距離}} = \text{絞り値}$$

※ガイドナンバーがメートル表示なら、撮影距離もメートルで計算してください。

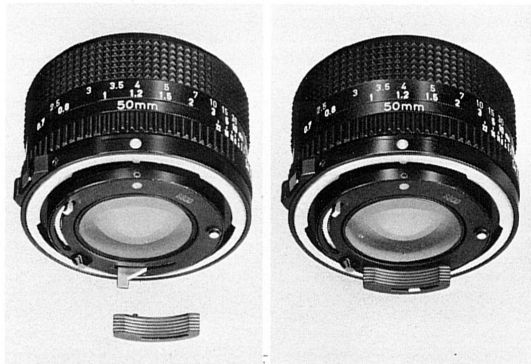
- このカメラにはキヤノンの専用ストロボを使用されることをお勧めします。特に他社の特定カメラ専用とされているストロボ(一般にホットシューに複数の接点をもつ)およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常機能を発揮しないことや、故障の原因となることがありますのでご注意ください。



FDレンズの機能

FDレンズの手動絞りロック

レンズとボディの間に絞り連動ピンのない、中間チューブなどをはさんで撮影するときは、手動絞りで撮影しなければなりませんので、次のようにしてください。



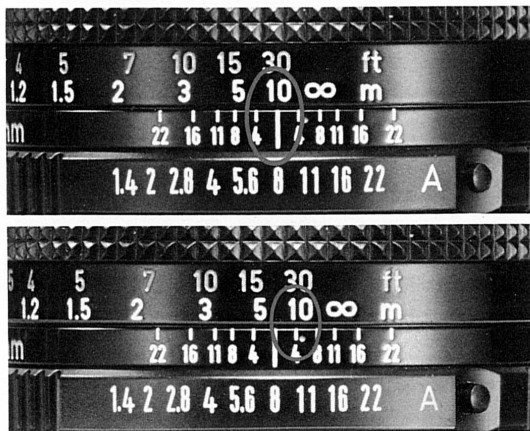
レンズ後部の自動絞りレバーに別売の絞りレバーストッパーを取り付け固定します。この状態でエクステンションチューブM等に取り付け、絞りリングを回せば絞り羽根が開閉します。

■絞りレバーストッパーを取り付けたレンズを、直接カメラやベローズ等に取り付けしないでください。



赤外写真と赤外マーク

赤外マークは、白黒赤外フィルムを使用するときのマークです。赤外フィルム撮影では通常の撮影とピント位置が異なってきますので次のようにしてください。



- 1.ピントを合わせます。
- 2.その結果が10mならば、レンズの距離目盛りの10を赤外マーク位置にずらします。
- 3.これで撮影します。なお、白黒赤外フィルム撮影のときは、赤フィルターを併用します。

- レンズの赤外マークは800n.m.の波長を基準に目盛ってありますが、一般の白黒赤外フィルムの波長は種類によって異なりますので(750~830n.m.)、撮影の際は補正マークを中心にして何枚か撮影することをお勧めします。
- カラー赤外フィルムについては、フィルム使用説明書に従ってください。

主要アクセサリ

AEモータードライブFN

キヤノンAEモータードライブFNは、このカメラをシャッター優先AEカメラに変換する機能をも備えたフィルム自動巻き上げ装置です。

最高速度秒間約5コマの電動巻き上げ、および巻き戻し機能、撮影環境や目的に合わせて選べる3種類の電源、大量100枚の連続撮影ができるフィルムチェンバーFN100などが利用できるほか、各種遠隔操作用アクセサリなどが用意されていますので、このカメラの撮影機能を飛躍的に高めることができます。



AEパワーワインダーFN

AEパワーワインダーFNは、このカメラをシャッター優先AEカメラに変換する機能をも備えたフィルム自動巻き上げ装置です。

撮影が終ると直ちにフィルムが巻き上げられ、次の撮影に備えますので、シャッターチャンスをはっきりと捉えることができます。連続撮影と1コマ撮影の切り換えスイッチがあり、連続撮影の場合は、最高秒間約2コマの連続撮影が可能です。



フィルムチェンバーFN100

フィルムチェンバーFNは、ニュー・キャノンF-1専用の小型軽量・長尺フィルムチェンバーで、AEモータードライブFNと組み合わせて使用します。100枚までの連続もしくは1コマ撮影が可能です。フィルムチェンバーFNは操作性を重視して設計したもので、小型軽量化と同時にシャッターボタン、グリップにも工夫を凝らしています。その結果ホールディングの区別なくチェンバーでの手持ち撮影を可能とし、従来のイメージを一新しました。



データバックFN

データバックFNは、このカメラ専用の日付け写し込み装置つき交換用裏蓋です。

写し込みは、内蔵ミニストロボの発光によって行われ、画面右下に年月日が入ります。なお、日付けの写し込みだけでなく、アルファベットもあり、組み合わせによって各種のデータ整理にも役立ちます。

データバックFNは直結接点をもつため、コードの接続は不要です。



オートペローズ中心の接写・拡大撮影システム

接写，拡大撮影のシステムアクセサリは総数40点をこえる大システムです。

その特長は，オートペローズ中心のバラエティーに富むシステム構成にあります。

簡単な接写から，原寸大以上のマクロ撮影にいたるまでシステムチックにご利用いただけます。

主な特長

1. 大型コピースタンド，フォーカシングレール，マクロステージによる撮影台の充実
2. マクロフォトレンズによる撮影倍率の拡大・高倍率化
3. 8・16・35mmおよびガストロ用のスライドデュプリケーター完備
4. ダブルケーブルレリーズによる絞り制御方式



ワイヤレスコントローラーLC-1

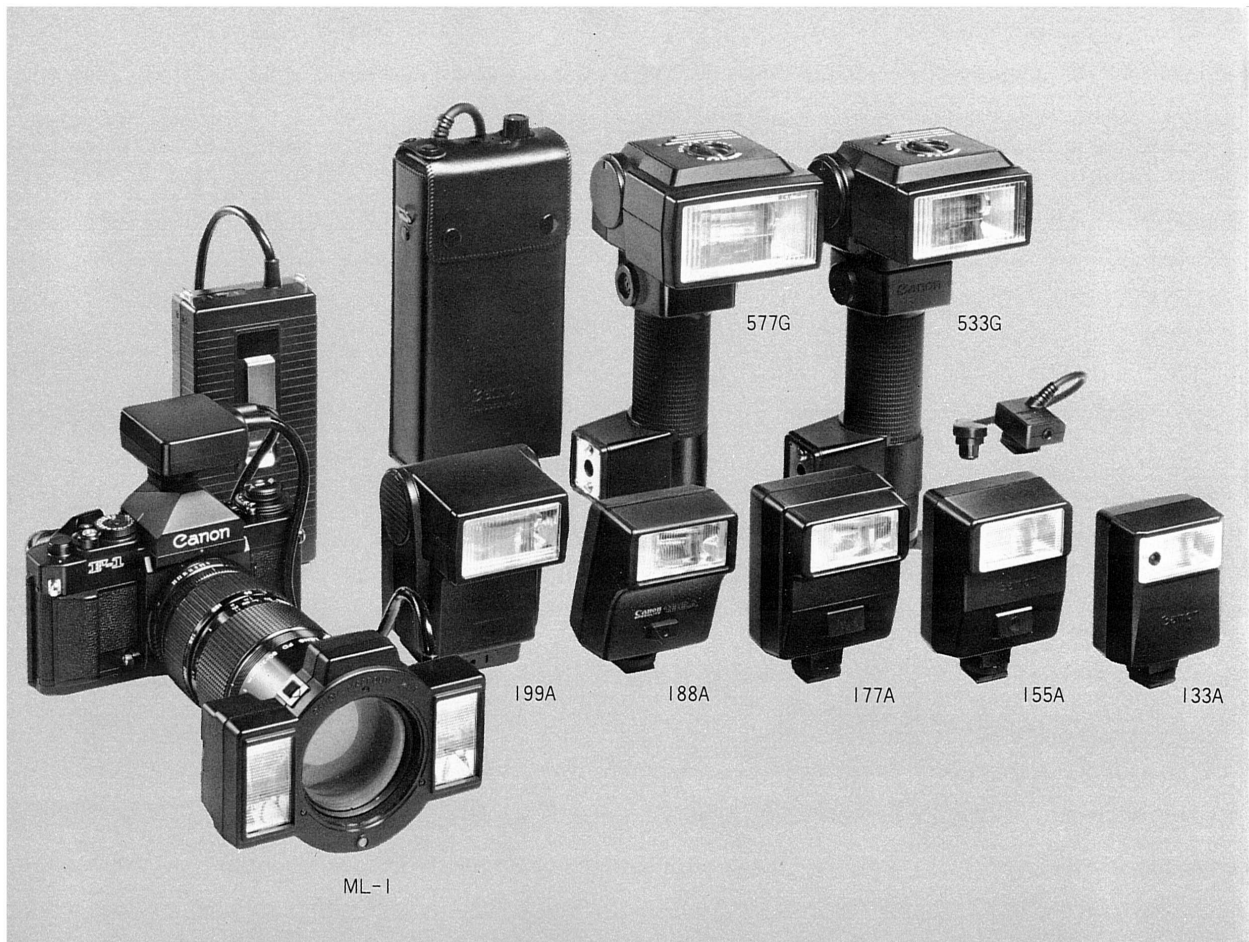
フィルム電動巻き上げ装置付きのニュー・キャノンF-1にワイヤレスコントローラーLC-1を併用すると，60mまでの遠隔距離内で撮影ができます。

さらに受信器さえ装着しておけば，何台のカメラでも同時コントロールができるうえ，チャンネル切り換えによって3台までのカメラを時差的に別作動させることもできます。

信号は複数発光式になっており，ストロボ発光による誤作動や電波障害が，ほとんどありません。

なお，この装置は，モータードライブMF付きF-1および電磁レリーズをもつ8mmカメラにも利用できます。動物・報道・観測写真などにご利用ください。

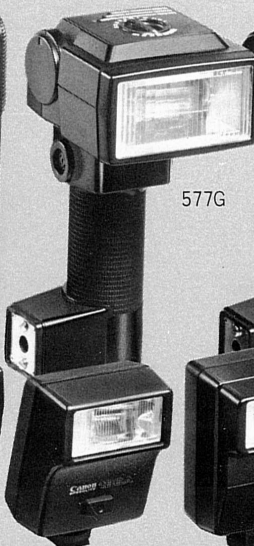




ML-1



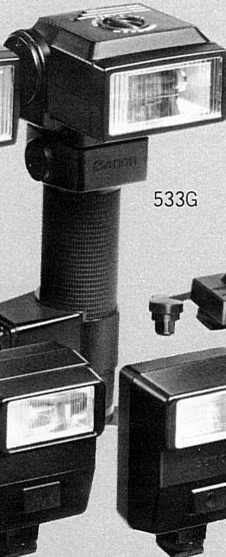
199A



577G



188A



533G



177A



155A



133A



主要性能表

	I33A	I55A	I77A	I88A	I99A	533G	577G
ガイドNo.(m, ASA100)	16	17	25(16)	25(16)	30(16)	36(22, 18, 51)	48(28, 24, 63)
照射範囲レンズ(mm)	35	35	35(28)	35(28)	35(24)	35(24, 20, 100)	35(24, 20, 100)
発光間隔(秒)	9	7	8	8	10	10	6
発光回数	約100以上	約300以上	約200以上	約200以上	約100以上	約120以上	約150以上
調光絞り選択スイッチ	F4	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 手動	F2.8, 5.6, 11手動	F2.8, 5.6, 11	F2.8, 5.6, 11, 手動
調光距離範囲(m)	0.5-8	0.5-6	0.5-9(0.5-5.7)	0.5-9(0.5-5.6)	0.5-10.6(0.5-6.3)	1-12.8 (0.5-7.8) (0.5-6.4) (2.5-18.2)	1-17 (0.5-10) (0.5-8.5) (2.5-22.5)
使用フィルム感度(ASA)	80-400	25-800	25-800	25-800	25-800	25-800	25-800
電 源	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, Ni-Cd	AM-3, 積層パック トランジスタパック	積層パック トランジスタパック
備 考			()内はワイドアダプター 使用時	()内はワイドアダプター 使用時	()内はワイドアダプター 使用時, ハウス撮影可, スローシンクロ可, その他	()内はアダプター使用時 ハウス撮影, スローシ ンクロ可, その他	()内はアダプター使用時 ハウス撮影, スローシ ンクロ可, その他

■データはAM-3型新品電池使用時です。 ■発光間隔は新品電池にて発光後パイロットランプが点灯するまでの時間です。 ■発行回数は30秒間隔です。

キヤノンマクロライトML-1

キヤノンマクロライトML-1は、むずかしいマクロ撮影の際の照明を手軽に可能とする調光ストロボです。ニュー・キヤノンF-1に用いれば、充電完了と同時にシャッタースピードは自動的にX接点に設定されますので、マクロライトの調光絞り値をレンズ側にセットするだけで、簡単にストロボ撮影ができます。特にFD80-200mmF4(クローズアップ

プレズ500T併用)に取り付ければ、離れた位置から被写体を好みの大きさにトリミングしながらの撮影ができます。

マクロライトML-1は一般近接撮影の他に、医療、商品撮影分野の接写にも大変便利です。ML-1はガイドナンバー16(ASA100)をはじめ、無影撮影、一灯発光可能などの機能を備えています。

主要性能

型 式：35mmフォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックスカメラ

画面サイズ：24mm×36mm

レンズ：キャノンFD交換レンズ群および開放信号ピンを持たないキャノン交換レンズ群

標準レンズ：FD50mm F1.2L, FD50mm F1.2, FD50mm F1.4およびFD50mm F1.8

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベルファインダー交換式, 他に交換ファインダー4種

視野率：97%

倍 率：0.8倍(50mmレンズで∞)

視 度：標準視度-1.0ジオプター, 視度補正レンズによる調節可能10種

情 報：*絞り値, メーター指針, 追針, 露出警告マーク, 絞り込み測光指標兼バッテリーチェック指標
* AEファインダー-FN使用のとき シャッターダイヤルをAにすると, 絞り値に変わってシャッター速度目盛り表示

フォーカシングスクリーン：交換式, 標準を含み13種, なお3種の測光感度分布との組み合わせで合計32種

測光調節機構：シャッタースピード, フィルム感度, 絞り値, 被写体輝度に連動するTTL追針式測光(FDレンズ以外は絞り込み測光)

測光方式：FDレンズ群…TTL追針式開放測光(フィルム電動巻き上げ機併用によりシャッター優先AE)可能. AEファインダー使用時は絞り優先AE可能. FD以外のレンズ群…TTL絞り込み測光(AEファインダー使用時は絞り込みAE可能)

測光方法：フォーカシングスクリーンの交換により中央部部分測光, 中央部重点平均測光, 中央部スポット測光に切り換え可能

測光連動範囲：ASA100でEV-1(4秒・F1.4)～EV20 ($\frac{1}{2000}$ 秒・F22)FD50mm F1.4使用 但し、絞り優先AE時はEV-1(4秒・F1.4)～EV19($\frac{1}{1000}$ 秒F22)

受光素子：超高感度SPC(シリコン・フォト・セル)

シャッター：機械制御式($\frac{1}{2000}$ ～ $\frac{1}{125}$ 秒, $\frac{1}{90}$ 秒, B)と電気制御式($\frac{1}{60}$ ～8秒)の両制御方式によるチタニウム幕使用の横走りフォーカルプレーンシャッター

シャッターダイヤル：一軸不回転式，A， $\frac{1}{2000}$ ， $\frac{1}{1000}$ ， $\frac{1}{500}$ ， $\frac{1}{250}$ ， $\frac{1}{125}$ ， $\frac{1}{60}$ ， $\frac{1}{30}$ ， $\frac{1}{15}$ ， $\frac{1}{8}$ ， $\frac{1}{4}$ ， $\frac{1}{2}$ ，1，2，4，8， $\frac{1}{90}$ ，B

レリーズ方式：電磁レリーズ方式，電池室から電池を抜き取ると機械式レリーズとなる（シャッターダイヤル連動範囲は $\frac{1}{2000}$ ～ $\frac{1}{125}$ 秒， $\frac{1}{90}$ 秒，B）
シャッターボタンのレリーズロック可

フィルム感度目盛り：ASA 6・12・25・50・100・200・400・800・1600・3200・6400

露出補正：±2段， $\frac{1}{3}$ ごとに目盛りあり

絞り込み：絞り込みレバーの操作による

セルフタイマー：電子制御式で10秒作動し，電子音による告知

裏蓋：取り外し可能，データバックFNおよびフィルムチェンバーFN-100の取り付け可能

フィルム装てん，マルチスリットによる迅速装てん

巻き上げレバー：予備角30°巻き上げ角139°小刻み巻き上げ可能

フィルムカウンター：順算式，裏蓋開放に連動して自動復帰

フィルム巻き戻し：巻き戻しノブのクランクレバーによる

多重露出：カメラ上部のフィルム巻き戻しセットレバーの押し下げによる

電源：6Vリチウム電池(2CR- $\frac{1}{3}$ N)，6Vアルカリ・マンガン電池(4LR44)，あるいは6.2V酸化銀電池(4SR44) 1個使用

バッテリーチェック：バッテリーチェックボタンによる，作動中の電子回路をOFFにする機能をも持つ

シンクロ接点：X接点のみ，ボディ側面にJISB型ソケット，ペンタ上部のアクセサリシューに直結接点あり，直結接点とシンクロターミナル併用の同時発光可能

X接点同調スピード： $\frac{1}{90}$ 秒，シャッターダイヤルの $\frac{1}{90}$ セッまたは専用スピードライトの充電完了信号による自動切り換え

その他：各種安全機構等

大きさ・重量：146.7×48.3×96.6mm・795g（ボディ）
FD50mm F1.4付き，1,030g

★手入れと保管

手入れ

どんな優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮することはできません。そのため常に手入れを心がけてください。手入れ用具として、ブロワーブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロスなどがあります。

レンズとファインダーはブロワーブラシで砂やホコリを吹払った後、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭取ってください。

海辺などで使用したカメラは塩分がついていますので特によく拭いてください。カメラのミラーボックス内はブロワーブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、キヤノンサービスステーションにお持ちください。フィルム室内には、フィルムカスなどが付きやすいため、常にゴミを吹払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムにすりキズをつける原因になります。レール面や圧着板をふく場合はクリーナー液とクリーニングペーパーを使用してください。その際、シャッター幕には手をふ

れないでください。

戸外撮影中、カメラが雨などにぬれた場合は、乾いた布で良く拭き取った後に、電池を抜き取り乾燥した風通しの良い場所に保管してください。

また寒い戸外から暖かい部屋に入るとカメラに水滴が付きますので、同様にしてください。

寒冷地ではビニール袋に入れて室内に持ち込み徐々に環境温度に慣らして取り出すと水滴も付かず良いでしょう。なお、10℃の温度差を30分位かけてから取り出すようにしてください。

保管

カメラケースをはずし、電池類を抜取って、湿気やほこりのないところに保管してください。

またカメラは長期間使用しないでおくとかびや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所はさけてください。

- ①車のトランクやリアウインドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるためさけてください。
- ②実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐食などの原因になるためさけてください。

同様にタンスの中などもさけてください。

長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。

長期間使用しなかった後や、重要な撮影の前には、各部の作動をご自身でチェックしてからご使用ください。

アフターサービス

- 1.保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
 - 2.本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間内でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。
- ★修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

ネックストラップの扱い

ネックストラップは、先端が金具の内側になるように通してください。カメラを肩からさげるときは、レンズを体の方に向け、脇の下で保護するようにしてください。



アクセサリを取り付けるときのご注意

このカメラは沢山の接点を持ちます。例えばファインダーには上部のフラッシュ用接点と底部の接点、およびカメラにはそれにつらなる接点があります。従って接点を持つアクセサリを取り付けるときは、カメラとアクセサリの接点をきれいにしてください。

